

# 小野達也

Contents

- \* 小野達也活動報告
- \* 静岡県議会報告



## 有言実行!!みんなとともに

発行：静岡県議会議員 小野達也事務所  
 〒414-0002 静岡県伊東市湯川1-6-2  
 TEL.0557-36-2089 FAX.0557-36-2080



ジオポートオープン

4月21日

新たな情報発信拠点として静岡県の観光施設整備予算を2/3投入した県と市の事業が一体となった施設です。



水産まつり

4月9日

この日、定置網で獲れた鮮度抜群の魚を格安で販売、農産物や加工食品も多数販売され、笑顔に包まれていました。



農林水産省訪問

4月5日

土地改良の持つ意義など、これから社会資本整備のあり方なども鑑み以前にも増して推進させてまいります。



伊東市消防団ポンプ操法大会

5月22日

機敏な動作でとても頼もしく思え、市民や外来客の安心・安全には消防団の陰の力が大切だと、改めて感じました。



熊本市訪問

4月28日

震度7を2回記録した熊本市を訪問。発生当時の全体把握の課題や、現在から今後の対応などについて伺いました。



伊東市サッカー場打ち合わせ

4月22日

予算に調査費が計上され、今後は具体的な場所を早急に決定し設計などの準備に入っていきたいと思います。

皆さまの声を実現!! **小野がやります!**  
 伊東大川河口工事状況



前年度から事業化した河口改修工事が着々と進んでいます。今年度、約1億円を投入して踊り場が整備されます。来年度の夏までには全体の工事を完了し、完成後は市民や来遊客の新たな憩いの場になると思います。



初日は風雨が強い為に予定を変更して屋内施設「標津サーモン科学館」を訪問しました。「羅臼町役場」では行政課題をお聞きし静岡県とは大きく違いがあることを実感いたしました。「羅臼漁港」ではせりが始まる前に場内の見学しました。昆布部長から興味深いお話をいただきました。また、深層水の活用の成果なども特に羅臼町あげての事業でありました。新規に開設の「ウトロ漁港」で新施設を案内していただきました。秋には毎日1万トンの鮭が水揚げされるとの事です。「網走漁港」では農林水産業と観光がコラボレーションした街づくりがされているように感じました。今後、静岡県で漁業・水産加工などに活用していきたいと思います。

静岡県水産振興協議会北海道漁港視察研修

5月11日~13日

皆さまとともに考え、実行!  
 伊東市への要望書提出



「伊豆高原を考える会」「伊豆高原ジオパーク研究会」「大室高原自治会」「伊豆高原親和会」「伊豆高原すいらん別荘地管理会」「伊東市を考える市民の会」などの皆さんからの要望書を伊東市へ渡す機会を設けました。今後ともご依頼があれば設定してまいります。



USAMIフェス

5月29日

ご来場の方の笑顔を押見し、民間主導のこの企画が素晴らしいものであることを改めて痛感いたしました。



ゴミゼロ運動

5月29日

市内の52団体から1042名もの参加で伊東市内の隅々のゴミ拾い作戦が行われ、私は松川河口付近を担当しました。



伊東商工会議所役員会

6月6日

伊東市に関わるものと新規事業を中心に県施策の説明をいたしました。役員の皆様からも政策提言がありました。



伊東市戦没殉難者合同慰霊祭

6月1日

恒久平和を誓い、政治が責任をもって日本を守り抜くことこそが御霊の思いに応えていけることと信じています。

# 県議会6月定例会にて一般質問



6月29日、県議会6月定例会本会議において一般質問に立ちました。私の質問と、それに対する答弁について報告いたします。

## 1 伊豆の魅力向上

### (1)伊豆地域の観光振興の姿

#### 質問【小野】

本県では、東京オリンピック・パラリンピックの自転車競技が開催されますが、多くの来訪者が本県の魅力を体感できるよう、受入態勢の整備も重要となり、大事な局面を迎えていると感じています。

しかし、伊豆地域の宿泊客数は、昨年度は約109.2万人と、ピーク時の半数程度となっており、伊豆地域の持つ潜在能力を考えれば、物足りない状況です。

こうした状況を打開するため、伊豆地域では、地域が主体となった様々な体験型旅行商品の造成が進められています。

今後、国内外からの誘客を加速度的に進めていくためには、こう

した取組を進める地域が連携し、質の高い観光地を形成していくことが、伊豆の命運を握っていると考えますが、県は伊豆地域における地方創生の最高の切り札である観光の振興をどのように図ろうと考えているのか伺います。

#### 答弁【川勝知事】

世界遺産韮山反射炉がこの度無事産業革命の構成遺産の一つとして選ばれましたし、また、川端康成が、「伊豆は日本の歴史の縮図」、「詩(うた)の国」、「南海の贈り物」、「伊豆半島全体が一つの公園である」と喝破したように、文学でも恵まれ、伊豆は必ず世界ジオパークに認定されるものとして、ますます伊豆の場の力が発現してくるものと確信しています。

静岡県では、こうした様々な伊豆半島の魅力を多くの方々に体感していただくために、平成26年度から伊豆南部地域にて、体験型旅行商品を一元的に提供するツアーセンターの設置・運営を支援しております。また、昨年度は、国の地方創生交付金を活用した伊豆地域の体験型旅行商品の割引チケットを販売し、8500枚が完売するなど、好評を得ました。



先月末には、伊豆半島全域の観光地づくりの舵取り役として、美しい伊豆創造センターが日本版DMO候補法人の登録を受けました。マーケティング機能を強化しつつ、農林水産業、商工業、スポーツなど多様な関係者を巻き込みながら、地域が一体となって、観光資源の活用・提供を進めることになりました。県におきましても、本年4月に東部総合庁舎内に伊豆観光局を設置し、地域により近い場所、連携を密にしてこのセンターの取組を支援しております。

また、好調なインバウンドを一層取り込むことも重要です。案内表示の多言語対応やWi-Fi環境の整備、街歩きのためのガイドマップやアプリの作成など、外国人に安心、快適な旅行を楽しんでいただけるように、受入環境の整備を促進してまいります。

さらに、観光施設の整備に当たりましては、市町と連携し、景観に配慮した整備を行うなど、良好な景観形成を目指してまいります。伊豆半島は沼津や三島を入れず11市町のみとまわりです。しかし、ちよつとバラバラというのもあり

ます。これをなんとかしてでも一つにしたい。そのために土屋副知事を任命いたしました。いわば、江川太郎左衛門です。相模から武蔵も視野に入れて、関八州全体を、また、日本全体に対して使命感を持ち、世界にも目を向けられています。そういう中心的な役割を果たしてもらいたいと強く期待しています。御協力、御支援をお願いしたいと存じます。これらの取組を通じ、住民の地

域への愛着や誇りの醸成が進むと考えておりますが、地域の価値を高めることで、伊豆地域が「住んでよし 訪れてよし」の、人々を惹きつけ、また憧れられる地域となり、また様々な地元関係者の皆様と一体となった観光地づくりに推進してまいります。

#### 【小野】

力強い答弁を頂きまして感謝申し上げます。知事からは、伊豆半島担当として土屋副知事が存在する、旨の発言がありましたのであえて申し上げます。土屋副知事には「全権委任を背負っている」とのことですので、事業の企画や採択に必要な予算・財源もしっかりと準備してまいります。



## (2)伊豆地域の道路整備

### 質問【小野】

伊豆地域では、韮山反射炉が世界文化遺産登録や東京オリンピック・パラリンピックの自転車競技の開催が決定など、地域の活性化に向けて追い風が吹いています。

こうした中、伊豆縦貫自動車道については、天城峠を越える区間は、計画段階評価が始まり、地元での期待も、一段と高まりを見せています。

しかし、伊豆地域全体を見回せば、依然として各所で渋滞が発生しており、更なる改善を求める声も聞こえてきます。

世界遺産登録やオリンピック・パラリンピックの開催に伴う効果を一過性に終わらせるとなく、伊豆地域全域に波及させるとともに、防災・減災力の向上につなげるためには、骨格を形成する道路の整備が大変重要であると認識しています。

伊豆地域に追い風が吹き、道路整備の機運が高まる今こそ、将来に向けて、計画的に事業を進める必要があると考えます。

#### 答弁【土屋副知事】

そこで、伊豆地域の骨格を形成する道路の整備を今後どのような形で進めていくのか、県の考えを伺います。



伊豆地域は、四季折々の美しい自然や魅力溢れる景色を有する一方で、議員御指摘のように、海岸路網の整備が遅れております。東京オリンピック・パラリンピック

の開催とそのレガシーを活かした観光振興はもとより、住民生活に不可欠な救急医療の確保や大規模災害発生時の対応など安全・安心を図るためには、伊豆縦貫自動車道を基軸に、骨格となる道路の整備が重要であります。

現在、伊豆縦貫自動車道の天城北道路では(仮称)狩野川横断高架橋、河津下田道路では(仮称)本線2号橋、これらの工事等が国により着実に進められております。これらに歩調を合わせ、県は、天城北道路から伊豆西海岸への交通円滑化を図る国道136号下船原バイパスや、河津下田道路の(仮称)逆川インターチェンジにつながる狭隘区間を解消する国道414号須原拡幅など、アクセス道路の整備を進めています。また、昨年11月には天城峠を越える区間で計画段階評価が始まり、

これまで地域にとつて夢であった伊豆縦貫自動車道が沼津・三島から下田までつながるといことが現実のものとなってまいりました。このため、本年3月末、県として伊豆地域の13市町や観光協会等で構成する美しい伊豆創造センターとともに「伊豆半島道路ネットワーク会議」を設立いたしました。

この中で伊豆縦貫自動車道の事業進捗に合わせ、国道135号や国道136号など沿岸部を周遊する幹線道路も含め、10年後、20年後の道路網の在り方を踏まえた、道路整備計画を策定します。

策定を進めております道路整備計画に基づき、国や関係市町と一体となって、背骨となる伊豆縦貫自動車道、肋骨となる道路の整備を一層加速させ、安全・安心で信頼性の高い道路ネットワークの構築に努めてまいります。

## 2 土砂災害対策の推進

### 質問【小野】

近年、地球温暖化の影響と思われる局地的豪雨が頻発しており、土砂災害の増加、甚大化が危惧されています。

さらに、4月に発生した熊本地震では、南阿蘇村の阿蘇大橋地区の崩壊をはじめ土砂災害が多発しました。

本県においても、豪雨や地震により発生する土砂災害への対策の充実・強化が急務です。

県内には施設整備の対象となる土砂災害危険箇所が5848箇所あり、昨年度末の施設整備率は約30%にとどまっています。

土砂災害から人命、財産を直接守ることが非常に大切です。土砂災害防止施設の整備を推進することが非常に大切です。

土砂災害から県民の安心・安全を図るため、今後どのような方針で土砂災害防止施設の整備を進めていくのか所見を伺います。



土砂災害は、自然災害の中でも犠牲者が発生しやすい災害であり、近年の局地的豪雨の多発により、発生件数も増加傾向にあることや大規模地震の切迫性が高まっていることから、砂防堰堤などの土砂災害防止施設の整備が一層重要となっており。

平成25年に西伊豆町の安良里浜川で発生した大規模な土石流では、人家が全半壊するなど大きな被害を受けましたが、隣接する安良里坂本川では砂防堰堤が土石流を止めて集落や国道の被害を軽減するなど、施設整備による大きな効果が発現しました。しかし、県内のこうした土砂災害防止施設の整備率は約30%であり、対策を必要とする箇所が数多く残っております。

これまで、人家が集中し効果の高い箇所から整備を進めてまいりました。今後は、高齢者の増加や自然災害の頻発化等に対応するため、要配慮者利用施設や防災拠点、緊急輸送路等を防衛する箇所への重点化を進めます。また、土砂災害が発生した場合には、当該箇所はもとより隣接箇所において同様な災害が起きないように、短期間で施設を整備し再発防止を図ります。

土砂災害による死者ゼロを継続するよう、引き続き市町と連携して、土砂災害防止施設の整備を着実に進めるとともに、土砂災害警戒区域等の指定を平成31年度に終了させて警戒避難体制の整備を進

め、ハード・ソフトの両面から、県民の皆様の安全安心の確保と県土の保全に努めてまいります。

### 3 高く評価される県立静岡がんセンターの医療

**質問【小野】**「がん」は、以前は不治の病と言われていましたが、近年の医療の進歩は目覚ましく、治療することができるよう病気がなろうとしていきます。しかし、「がん」と診断された患者さんやそのご家族にとつて、再発等の不安は大きく、最先端でより良い医療を受けることを望んでいます。

静岡がんセンターでは、最先端の医療機器の導入を積極的に行っており、手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を平成23年9月に導入したと聞いていますが、これまでの手術実績について伺います。

また、今年1月に放送されたテレビ番組「情熱大陸」で、静岡がんセンターの上坂副院長が紹介され、大きな反響があったと聞いています。このような評価を得られるのは、静岡がんセンターの病院全体の評価が高いためだと思われ、高評価を得られている最大の長所は何だと考えているか。また、高い評価を維持していくには、今後、どのようなことが必要と考えているのか伺います。

### 答弁【静岡がんセンター石野局長】



ダ・ヴィンチによる手術は、精密な操作が可能で出血が少ないことなどから、全国の病院で導入が

進んでおります。静岡がんセンターでは、5月末までに959件の手術を実施し、特に大腸がんは482件で全国1位、胃がんは2位の実績で、大腸の領域では、新たにダ・ヴィンチを導入する際の教育施設にもなっております。

静岡がんセンターでは、年間6000人の患者さんをがんと診断し、そのうち4500人に外科手術を実施しておりますが、国立がん研究センター中央病院、がん研究会有明病院などと並び、症例数、診療水準とも我が国トップクラスの病院とされており、特に、食道、胃、肝臓・胆のう・すい臓、大腸を扱う消化器外科領域では、世界的レベルのスタッフが揃っていると考えております。こうした優秀な医療スタッフに加え、ダ・ヴィンチをはじめ、陽子線・放射線治療装置、内視鏡装置など、常に最先端の機器を駆使して診療に当たっております。

最先端診療の提供とともに、がんよろず相談や患者・家族支援センターにおいて、患者、家族の不安の解消を行うなど、あらゆる場面で患者・家族を徹底支援している姿勢が、高い評価をいただいている要因であると考えております。今後も、最善の治療、最新の機器を積極的に導入するとともに、遺伝子解析技術を用いてがんの性質を明らかにし、個別的医療の推進や薬剤の新たな開発、適応拡大などを目指すプロジェクトHOPEをはじめ、臨床研究にも積極的に取り組む、がん診療水準の更なる向上に努めてまいります。

### 4 スポーツ人材バンクの構築

**質問【小野】**中学校・高等学校の運動部活動は、専門的な指導ができる教員の不足により、種目によっては十分な指導を受けることがで

きない部活動があり、指導者の確保が大きな課題となっております。

生徒のスポーツ活動の基盤である運動部活動の充実、競技力の向上や人格の形成にも大きく貢献するものですから、教員をサポートできる地域のスポーツ指導者の活用が大変重要であると考えます。一方、県民には優秀な選手として活躍し、現在現役を退いた方などがおり、そのような方々を有効に活用することが、競技力の向上などにも有効です。

昨年度、総合教育会議において地域の人材活用に向け、議論され、予算化がされたスポーツ人材バンクの構築に向けた取組について伺います。

### 答弁【木苗教育長】



学校の運動部活動をはじめ、総合型地域スポーツクラブや地域のスポーツ教室などにおいて、指導者の不足が課題となっております。特に部活動においては、1000人を超える外部指導者が活用されておりますが、中学校、高等学校からは、約350人の追加の派遣希望が寄せられております。

このような現状から、県教育委員会では、競技団体や学校等とのネットワークを持つ県体育協会と連携して、スポーツ人材バンクを構築し、経験豊富な指導者を派遣できる体制を整えます。具体的には、優秀な指導者を発掘、認定してバンクに登録するとともに、研修等を行い資質の向上を図ります。

指導者の確保については、競技団体等と協力し、県内全域に指導者が登録されることを目指します。

また、登録した指導者を適材適所に派遣するために、指導者と派遣先とのマッチングが必要になりますので、コーディネーターを配置し、きめ細かなマッチングを把握し、きめ細かなマッチングを行ってまいります。

今年度は、専門的な指導者確保が課題となっている学校部活動において、これらの取組を組みを検証し、この人材バンクを幅広いスポーツ団体が活用できるよう、努めてまいります。

### 5 コミュニティ・スクール

**質問【小野】**平成27年12月、国の中央教育審議会が「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」という答申を取りまとめました。

学校が抱える課題が複雑化・困難化している中、これを解決し、子どもたちの生きる力を育むには、地域住民や保護者等の参画を得た学校運営が求められています。

答申では、全ての公立学校がコミュニティ・スクールとなることを目指すべきであるとの方向性が示されるとともに、従来の取組を一層推進・加速するとともに、「学校支援地域本部」を「地域学校協働本部」に発展させ、コミュニティ・スクールと一体的・効果的に推進することが提言されました。

こうした状況を踏まえ、今後、県では、どのようにコミュニティ・スクールを県内に普及し、学校支援地域本部等と協働を図り、地域とともにある学校づくりを推進していくのか伺います。

### 答弁【木苗教育長】

本県では、コミュニティ・スク

ールを中核として「地域とともにある学校づくり」を推進しており、平成25年4月時点で5校だったコミュニティ・スクールの指定校数は、平成28年4月現在、58校となっております。

一方、こうした取組は持続可能なものであることが不可欠です。本年3月に取りまとめられた「しずおか型コミュニティ・スクール推進会議」の報告書では、本県の実情に合った今後の「地域とともにある学校づくり」の在り方が示されました。具体的には、「コミュニティ・スクールを従来より広く捉え、各学校で作成・公表されている学校経営構想において地域との連携・協働を明記する」、「地域固有の資源を活用し、バランスの取れた「有徳の人」の育成を目指す」、「保護者・地域住民による学校運営への「実質的な」参画がある」という三つの要件を満たした学校を「しずおか型コミュニティ・スクール」と定義し、この取組を推進することで、コミュニティ・スクールの裾野を広げていくべき」と提言されています。

県教育委員会では、この提言を踏まえ、各地域における「しずおか型コミュニティ・スクール」の取組を支援し、法律に基づくコミュニティ・スクールに移行しやすい環境の醸成に努めてまいります。また、学校、保護者、地域住民が情報や課題認識を共有し、連携が深まるよう、学校支援地域本部事業とコミュニティ・スクールに関する研修を合同で実施し、「地域とともにある学校づくり」の取組を加速させてまいります。

**【小野】** 本日は伊豆半島の議員が3名、質問に立ちましたがもちろん県政全体を見たらうえて発言をいたしました。全ての項目が反映されずよう要望いたします。

# 県議会会派自民改革会議 政調会長活動報告

27年度は静岡県議会会派自民改革会議の政調会長を拝命し、県議会での重責を担わせていただいた一年でした。今回は政調会長としての一年間の活動を県議会定例会を中心に報告いたします。



## ■6月定例会

提出予定の議案について、当局からの説明会が行われ、政調会長主催ですべて皆さんに参加いただき会議を進め、その後、会派自民改革会議所属議員の総会を開催し、6月定例会に向け意見書案の提案などをします。議会改革検討委員会の設置、内容にも触れ、取りまとめについては私に一任していただきます。

議会後、会派議員総会を開催し、政調会長として各会派から提出された意見書案について報告をし、代表質問・一般質問される議員から説明を受けます。

この期間内に並行し、議会閉会日に川勝知事へ手渡す「地方創生についての提言書」の作成に向けて、プロジェクトチームで取りまとめ作業をいたしております。議会最終日、全ての議案に賛成

を表明、討論では個人情報関連の議案や副知事人事案について県民の代弁者として思いを述べました。閉会後、知事、県幹部に地方創生について「総合戦略」への意見と提言のまとめを渡し、政調会長として意見を述べました。

## ■9月定例会

政調会主催の「9月補正予算要求状況説明会」を開催いたしました。協議を重ね定例会に臨みます。



さらに、文化観光部から提出予定の議案説明会があり、世界文化遺産センターの建設についての変更が説明されましたが、会派議員から県民の視線を重視すべきとの意見が寄せられましたので、私は政調会長として意見集約し、会派三役での記者会見を開催し、責任者としての考えを県民の皆様へご報告いたしました。

## ■12月定例会

今回の定例会で議論の中心となり、委員会でも集中審議がなされた「富士山世界遺産センター」の発注見直し



等に関する申し入れを知事に書面をもっていたしました。この先、東京オリンピック等の建設需要を鑑み、予算額の見積もりや発注時期などを慎重に対応されるよう求めました。

また、来年度の予算に対し自民改革会議としての要望を知事に手渡しました。

政調会長としてまとめ上げたものですので、私から説明をさせていただきます。特に経済の再建を進めていくことを第一に、中小企業・小規模企業対策を強く求めております。

## ■2月定例会

2月定例会では、来年度の予算が決議されますので、開会前に多くの折衝があります。来年度の予算調整案・事業執行案などのヒアリングを行います。

昨年末、知事に自民改革会議としての静岡県予算の要望事項を手渡しして以来、一か月以上検討をいただき、この日は最終局面に入りました。この会議を何度も繰り返してまいりましたので課題は絞られており、一般的に要望の多い「生活環境整備事業」が柱となっております。

2月1日、28年度の予算についての要望に対し、知事からの最終回答があり、要望には満額の予算が付き、東京オリンピック・パラ

リンピックの関係では、別枠で伊豆周辺の道路整備に7億1千万もの予算を立てられました。

政調会長として会派を代表し、知事に対し要望にお応えいただきたいお礼と、県民のための県政運営に努める考えを伝えました。

定例会が開会され、議会で上程された来年度当初予算案の中で「浜松市の篠原地区基本計画作成費」について早朝議員総会で集中的に審議し、方針としては修正案を提出することも含め委員会集中審査を行う判断することとし、審議を重ねた結果、修正案を提出することとなりました。

建設委員会において私たちが提出した来年度予算「修正案」が可決され、会派代表・党三役で記者会見を開きました。



県知事と県議会は車の両輪とたとえられますが、時にチェック機構として正しく予算が使われている

## 中小企業対策連絡協議会



各年の今反我が生に進めたい。各年の今反我が生に進めたい。各年の今反我が生に進めたい。

## 県商工会連合会から要望申し入れ



要望がありました。受け止めます。特に製造業で20名以下、サービス業で5名以下の「小規模企業」には新たに法整備が整ったので県を構築して

## TPP交渉大筋合意に対する緊急要請



県内の農業生産者代表の5名の方と組織代表の3名の方が意見を表明され切実な思いをお伝えいただきました。この生産者と消費者の意見を重く受けとめ、政策課題として議論してまいりました。

るか審議の段階でこのような状況もある事を示せたと思います。二元代表制として、議会が知恵を絞り団結することにより、知事の考えだけで全てが動くことを防止できます。今回、修正する部分は250億円を超える大きな公共投資でした。

政調会長として昨年の夏に67回にわたり県内各地の要望調査を実施しました。続けて秋に各団体や市町からの200以上に上る政調会への要望書（内容は福祉から各産業、商業にわたります）を検討させていただき、県内各地の現状に触れる機会を多くいただきました。今回の経験は私にとって大変重要な財産となりました。

今後も、県全体の情勢や国の政策などを視野に収め、地域の発展のために力を注いでまいります。

県政・伊東市に対する皆さまのご意見、ご要望をお聞かせください。

静岡県議会議員 **小野達也** 事務所

TEL.0557-36-2089

〒414-0002 静岡県伊東市湯川1-6-2 FAX.0557-36-2080

公式サイト [www.ono-tatsuya.com/](http://www.ono-tatsuya.com/)  
E-mail [ono-tatsuya@bird.ocn.ne.jp](mailto:ono-tatsuya@bird.ocn.ne.jp)



小野達也

検索

